

講義名	9050001700 レクリエーション 【ナンバリング：100014】						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員	高橋 英成		

學習目標(到達目標)

以下の点を到達目標とする。

1. レクリエーションの意義と手段を理解する。
2. レクリエーション活動を実施できる。
3. 参加者(加齢や障害)に応じたレクリエーションの中で必要な支援を実施し、評価することができる。

授業概要(教育目的)

レクリエーションの定義である「心を元気にすること」を目的としたさまざまなレクリエーションを体験しながらレクリエーションを行う意義を理解し、レクリエーションが個人、地域、介護現場等で果たす役割について学ぶ。

また、リーダーとしてレクリエーション活動の展開方法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

利用者や家族の援助のためのコミュニケーション能力、的確な記録・記述ができる能力および介護過程を多職種協働チームにより展開できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験、課題、受講態度などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

「楽しさをおとした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」
公益財団法人日本レクリエーション協会

資格との関連

日本レクリエーション協会認定資格「レクリエーション・インストラクター」
取得要件科目

実務との関連

介護福祉士として介護施設でのレクリエーション活動を行ってきた経験から、利用者の心身の状態に応じた支援の一つとしてレクリエーション活動を提案する。

学生へのメッセージ

テキストを必ず持ってくる事。授業では体を動かす回もあり、上靴や動きやすい服装等の指示は事前に案内する。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050002700 生活支援技術Ⅰ 【ナンバリング：211011】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	鈴木 絵美		

学習目標(到達目標)

1. 利用者の自立した移動の在り方について理解し、介助における基本的視点を持つことができる。
2. 利用者の身体状態に応じた安全で的確な移乗・移動の介助法を行うことができる。
3. 安全な移乗・移動を行うための環境とその整備について説明することができる。
4. 移動に関連した福祉機器や福祉ロボットの活用方法について説明することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面において汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけていること

評価方法

1. 筆記試験
2. 実技試験
3. 授業態度

講義時使用テキスト

生活支援技術Ⅰ 介護福祉士養成講座6 中央法規

資格との関連

実務との関連

授業概要(教育目的)

介護を必要とする人々が人間の尊厳をもって、その人らしく生きるための自立・自律を尊重し潜在能力を引き出しつつ、適切な安全・安楽な介護技術を援助できるための知識、技術を習得する。また、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につながることを理解する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)は採点の上返却する。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。

参考文献

適宜配布する

学生へのメッセージ

演習時は、実習着に着替え、身だしなみを整えて臨むこと。
分からないことはそのままにせず、ぜひ積極的に質問してください。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	生活支援の基本的な考え方① 生活支援とは何か ライフサイクルと生活の豊かさ	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
2	生活支援の基本的な考え方② 生活支援のポイント	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
3	根拠に基づく生活支援技術とは	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
4	利用者主体の生活支援技術の実践に向けて① 利用者の生活を理解するとは	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
5	利用者主体の生活支援技術の実践に向けて② 利用者の生活を理解するとは	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
6	生活支援における福祉用具の重要性① 福祉用具とは 福祉用具の種類 公的制度における福祉用具サードス	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
7	生活支援における福祉用具の重要性② 適切な福祉用具を選ぶための視点	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
8	生活支援と介護過程① 事例を通して生活支援を考える 生活支援とチームアプローチ	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
9	生活支援と介護過程② 事例を通して生活支援を考える 生活支援とチームアプローチ	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
10	生活支援と介護過程③ 事例を通して生活支援を考える 生活支援とチームアプローチ	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
11	災害における生活支援① 介護福祉職の役割	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
12	災害における生活支援② 災害時における生活支援の実際	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
13	災害時における生活支援③ 八戸市の災害事情を知る	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
14	災害時における生活支援④ 八戸市の災害事情を知る	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
15	カレンデュラ 移動・移乗の意義と目的 移動・移乗における基本的な介護の視点	テキストの該当箇所を読む	配布資料とノートを読み直す
16	移乗・移動におけるアセスメント ボディメカニクス 福祉用具使用にあたっての注意点	テキストの該当箇所を読む	課題のレポートを作成する
17	確認テスト「ボディメカニクス」 自立に向けた移動・移乗の介護 ・ベッド上での 上方移動、水平移動	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
18	自立に向けた移動・移乗の介護 ・仰臥位から側臥位の介助	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
19	確認テスト「実技：ベッド上での 上方移動、水平移動」 自立に向けた移動・移乗の介護 ・仰臥位から側臥位への介助と起き上がりから端座位への介助	確認テストのためテキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
20	自立に向けた移動・移乗の介護 ・端座位から立位の介助 ・応用編「仰臥位から端座位を経て立位まで」	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
21	確認テスト「実技：仰臥位から端座位を経て立位までの介助」 安楽な姿勢・体位を保持する介助 ・褥瘡の原因と予防のポイント ・仰臥位、側臥位、半座位、起座位の体位保持	確認テストのためテキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
22	安楽な姿勢・体位を保持する介助の実際 車椅子の基本構造 正しい座位姿勢の観察ポイントと基本的な使い方	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
23	確認テスト「車椅子の基本構造」 自立に向けた移動・移乗の介護 ・車椅子からベッド、ベッドから車椅子への移乗介助①	確認テストのためテキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
24	自立に向けた移動・移乗の介護 ・車椅子からベッド、ベッドから車椅子への移乗介助②	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
25	自立に向けた移動・移乗の介護 ・車椅子の移動介助	確認テストのためテキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
26	確認テスト「車椅子からベッド、ベッドから車椅子への移乗介助」 自立に向けた移動・移乗の介助 ・歩行の介助を行うにあたって ・杖歩行介助	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
27	自立に向けた移動・移乗の介助 ・転倒事故予防のための環境と整備 ・グループワーク「危険予測と対応」	確認テストのためテキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
28	実技試験「散歩に行くためベッド臥床の利用者を車椅子へ移乗する」	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
29	生活支援、移動の授業を振り返る 事例を通して状態に応じた介護について考える	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
30	生活支援、移動の授業を振り返る 事例を通して状態に応じた介護について考える	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	9050002900 生活支援技術Ⅲ 【ナンバリング：211013】						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	鈴木 絵美		

學習目標(到達目標)

利用者のよりよい自立に向けた排泄、身じたくに関するICFの視点に基づくアセスメント、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた介護を実施できるように学習する。

授業概要(教育目的)

1. 個人のプライバシーや人間の尊厳を重視しながら、自立に向けた排泄の支援を考え、実践できる能力を養う。
2. 身じたくの自立に向けて、利用者の状態・状況に応じた介助の留意点を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面において汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけていること

評価方法

1. 受講態度
2. 課題・レポート(含むグループワーク参加度)
3. 試験

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)は採点の上返却する。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

壬生尚美・佐分行子編「事例で学ぶ 生活支援技術習得 新カリ対
応」日総研出版 2008年
古澤章良編「福祉施設における危険予知訓練(KYT)」簡井書房
2013年

講義時使用テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新
生活支援技術Ⅱ」中央法規出版株式会社 2020年

資格との関連

実務との関連

授業計画表

[illegible]

講義名	9050003500 介護総合演習Ⅰ 【ナンバリング：211019】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	岩舘 亜沙美		

學習目標(到達目標)

- 1 介護実習の意義と方法を理解できる。
- 2 実習生による施設の概要や介護サービスの内容を理解できる。
- 3 実習生として望まれる姿勢を理解できる。
- 4 職員と利用者との望ましいコミュニケーションのしかたを理解できる。
- 5 介護福祉士に求められる守秘義務を守り、実習で知り得る個人情報
の保護に努めることができる。
- 6 地域における多職種との連携・協働の必要性を理解できる。
- 7 実習が、各領域での学習で得られた知識と技術を統合する機会である
ことを理解できる。
- 8 実習記録の方法を理解できる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面において汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけていること

評価方法

レポート提出のほか、グループ討議、報告会発表の状況を踏まえ、総合的に判断する。

講義時使用テキスト

「最新・介護福祉士養成講座第10巻 介護総合演習・介護実習」
介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規出版)

資格との関連

介護福祉士国家試験受験資格

実務との関連

教員は、介護福祉士専門職としての経験を有しており、介護現場を意識した実践的な指導を行うことができる。

授業概要(教育目的)

実習をより効果的に行えるように、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。そのため、ここでは実習に必要な知識・技術の習得を図るとともに、実習を振り返り、次の実習に向けた自己の課題を明確にする内容とする。

課題に対するフィードバック

実習日誌などの記録物の指導や生活支援技術の指導には、教員が個別に行う。

参考文献

適宜紹介する。

学生へのメッセージ

実習での不安を少なくするために、しっかりと実習準備に取り組んでほしい。準備に時間と手間を掛けた分だけ実習での学びも大きくなると思って取り組んで欲しい。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050003600 介護総合演習Ⅱ 【ナンバリング：211020】						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	鈴木 絵美		

學習目標(到達目標)

1. 介護実習の意義と方法を理解できる。
2. 実習先となる施設の概要や介護サービスの内容を理解できる。
3. 実習生として望ましい姿勢を理解できる。
4. 職員や利用者との望ましいコミュニケーションのしかたを理解できる。
5. 介護福祉士に求められる守秘義務を守り、実習で知り得る個人情報の保護に努めることができる。
6. 地域における多職種との連携・協働の必要性を理解できる。
7. 実習が、各領域での学習で得られた知識と技術を統合する機会であることを理解できる。
8. 実習記録の方法を理解できる。
9. 受け持ち利用者の情報収集を行ない、介護過程の展開を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面において汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけていること

評価方法

試験のほか、報告会発表の状況を踏まえ、総合的に判断する。

講義時使用テキスト

「最新・介護福祉士養成講座第10巻 介護総合演習・介護実習」
介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規出版)

資格との関連

介護福祉士国家試験受験資格

実務との関連

教員は、介護福祉士や社会福祉士などの介護関連資格と専門職としての経験を有しており、介護現場を意識した実践的な指導を行うことができる。

授業概要(教育目的)

各領域で学んだ知識・技術を統合し、ICFの視点による受け持ち利用者の情報収集を目指す学習とする。また、実習先での介護参加ができるように生活支援技術の復習を行なう。

課題に対するフィードバック

課題の評価は、担当教員が個別に開示する。

参考文献

学生へのメッセージ

実習での不安を少なくするために、しっかりと実習準備に取り組んでほしい。準備に時間と手間をかけた分だけ実習での学びも大きくなると思っており取り組むこと。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050003700 介護総合演習Ⅲ 【ナンバリング：211021】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員	鈴木 絵美		

學習目標(到達目標)

1. 利用者の言動の意味を考えることができる。
2. 多方面から利用者のニーズを捉え、介護過程の展開ができる。
3. 実習に主体的に取り組むことができる。
4. 介護実践における根拠の必要性が理解できる。
5. 知識と技術を統合できる。

授業概要(教育目的)

介護実習Ⅲでの一連の介護過程の展開を利用者の状態に照らし合わせて評価、考察し、介護計画を修正することができる。介護実習で主体的に行動できるようにする。根拠をもって介護実践の科学的探求ができるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

- ・あらゆる場面において汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけていること
- ・利用者や家族のためのコミュニケーション能力、的確な記録・記述ができる能力および介護過程を多職種協働チームにより展開できる能力を身につけていること

評価方法

試験のほか、授業態度等を踏まえ、総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)は採点の上返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

介護総合演習・介護実習 中央法規

資格との関連

実務との関連

授業計画表

[illegible]

講義名	9050003800 介護総合演習Ⅳ 【ナンバリング：211022】						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員	岩舘 亜沙美		

學習目標(到達目標)

1. 事例研究の必要性が理解できる。
2. 根拠のある介護を実践し、論理的説明の必要性がわかる。
3. 事例研究をまとめ、発表することができる。
4. 自己研鑽の必要性を理解できる。
5. 自己の介護観を明確にできる。

授業概要(教育目的)

事例研究や発表を通して、自己の提供する介護について利用者や家族、他職種に対して論理的な説明ができる必要性を理解する。介護実践の科学的探求、介護の実践の改善につながる問題解決技法の習得の必要性についても理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

- ・あらゆる場面において汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけていること
- ・利用者や家族のためのコミュニケーション能力、的確な記録・記述ができる能力および介護過程を多職種協働チームにより展開できる能力を身につけていること

評価方法

レポート課題、成果発表のプレゼンテーションなどの取り組み状況を踏まえ、総合的に判断する。

課題に対するフィードバック

提出したレポートなどは、評価したのち返却する。

参考文献

「基礎演習とプレゼンテーションの手引き」八戸学院大学・八戸学院大
学短期大学部
「ワークで学ぶ介護実習」(株)みらい・実習体験レポート

講義時使用テキスト

最新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習 介護実習」中央法規出版

資格との関連

介護福祉士資格取得に向けた専門科目

実務との関連

授業計画表

[illegible]

講義名	9050003900 介護実習Ⅰ 【ナンバリング：211023】						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	岩舘 亜沙美		

學習目標(到達目標)

1. 介護を必要とする人とのかわわりを通して、介護ニーズを総合的に理解できる。
2. 介護を必要とする人々および介護従事者との人間関係を築くことができるためのコミュニケーション技術を身に付ける。
3. 実習施設・事業所の機能と地域における役割を理解できる。
4. 介護福祉士の職務を理解し、チームワークおよび職種間の連携・協働について理解できる。
5. 権利擁護の視点から、介護福祉士の職業倫理を理解できる。
6. 自己を客観視し、自己の課題を明確化するとともに自己理解を深めることができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面に汎用できる介護の知識と技術を有し、利用者の自立支援の観点から、身体的、心理的、社会的支援を展開できる能力を身に付け、根拠ある介護を展開することを目指す。

評価方法

1. 介護実習は出席次数の4/5以上を満たす時間であること。
2. 介護実習の目標に到達できた者。
3. 評価項目の合計が60点以上であること。
4. 実習施設の評価をもとに実習担当教員が総合的に判断し単位認定する。

講義時使用テキスト

「最新・介護福祉士養成講座第10巻 介護総合演習・介護実習」
介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規出版)

資格との関連

介護福祉士国家試験受験資格

実務との関連

実習指導者は、豊富な介護経験と実習指導者資格を有する介護福祉士が担うため、実践的な視点から指導を行う。巡回指導教員も、介護福祉士や社会福祉士、ケアマネジャーなどの介護関連資格と専門職としての経験を有しており、実習指導者と協力した実践的な指導を行うことができる。

授業概要(教育目的)

地域での生活を支える介護サービス事業所の取り組みに参加することで、利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者や家族との関わりを通したコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認となる学習とする。

課題に対するフィードバック

実習中は、業務見学や業務参加を通して、実習指導者や施設職員が指導や助言を行う。実習日誌などの記録物の指導には、巡回指導教員などの本学専任教員が指導や助言を行う。

参考文献

学生へのメッセージ

介護実習では、利用者個人の生活スペースに入ることになるため、身だしなみや礼節をしっかりと日常から備えておくのが望ましい。あいさつなどの基本的な姿勢も、介護福祉士に必要な資質であるということを自覚して、学生生活のうちから身につけておくようにしてほしい。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050004100 介護実習Ⅲ 【ナンバリング：211025】						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	鈴木 絵美		

學習目標(到達目標)

1. 介護を必要とする人とのかかわりを通して、介護ニーズを総合的に理解できる。
2. 介護を必要とする人々および介護従事者との人間関係を築くことができるためのコミュニケーション技術を身につける。
3. 実習施設・事業所の機能と地域における役割を理解できる。
4. 介護福祉士の職務を理解し、チームワークおよび職種間の連携・協働について理解できる。
5. 権利擁護の視点から、介護福祉士の職業倫理を理解できる。
6. 自己を客観視し、自己の課題を明確化するともに自己理解を深めることができる。
7. 介護ニーズを把握し、根拠に基づいた生活支援を実践できる。
8. 全人的な視点から受け持ち利用者の情報収集を行い、ICFに基づいた情報を整理することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面に汎用できる介護の知識と技術を有し、利用者の自立支援の観点から、身体的、心理的、社会的支援を展開できる能力を身に付け、根拠ある介護を展開することを目指す。

評価方法

1. 介護実習は出席次数の4/5以上を満たす時間であること。
2. 介護実習の目標に到達できた者。
3. 評価項目の合計が60点以上であること。
4. 実習施設の評価をもとに実習担当教員が総合的に判断し単位認定する。

講義時使用テキスト

「新・介護福祉士養成講座第10巻 介護総合演習・介護実習第3版」
介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規出版)

資格との関連

実務との関連

授業概要(教育目的)

地域での生活を支える介護サービス事業所の取り組みに参加することで、利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者や家族との関わりを通したコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認となる学習とする。

課題に対するフィードバック

参考文献

学生へのメッセージ

本実習では、利用者を学生ごとに受け持ち、情報収集として心身や環境などの状態把握を行うことになるため、既習の知識をすべて活用できるよう復習をしておくことが望まれる。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050004300 発達と老化の理解Ⅰ 【ナンバリング：211027】						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	杉田 由佳理		

學習目標(到達目標)

1. 人間の成長と発達を理解できる。
2. 老年期の発達と成熟を理解できる。
3. 老化に伴うことごとくからだの変化と日常生活が理解できる。

授業概要(教育目的)

人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)の各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病など、生活に必要な支援をするために必要な知識を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面に汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけている。
個人の尊厳を重んじ、倫理観のある行動をとれる。

評価方法

定期試験70%、課題学習への取り組み20%、グループワークの参加状況10%により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(小テスト)は模範解答を示す。
授業のなかで解説する。

参考文献

コミュニティケア; 日本看護協会出版会(定期出版雑誌)

講義時使用テキスト

新・介護福祉士養成講座11：発達と老化の理解；中央法規

資格との関連

介護福祉士資格取得の必修科目である。

実務との関連

看護師および専任看護教員、大学教員(社会福祉学部)として、臨床と教育に携わった経験を活かし、理論に基づいた実践について、具体的に講義する。

学生へのメッセージ

【予習】予習テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておくこと。
【復習】授業の内容を整理し、疑問点はそのままにせず調べておくこと。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050004400 発達と老化の理解Ⅱ 【ナンバリング：211028】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員			

學習目標(到達目標)

1. 高齢者と健康が理解できる。
2. 保健医療職との連携が理解できる。

授業概要(教育目的)

1. 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾患とその症状、生活への影響、健康の維持・増進、予防を含め、生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する。
2. 高齢社会における保健医療職とのチームケアの必要性と連携のポイントを学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面に汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけている。
個人の尊厳を重んじ、倫理観のある行動をとれる。

評価方法

定期試験70%、課題学習への取り組み20%、グループワークの参加状況10%により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(小テスト)は模範解答を示す。
授業のなかで解説をする。

参考文献

発達と老化の理解;メジカルフレンド社・国民衛生の動向;厚生統計
協会編

講義時使用テキスト

新・介護福祉士養成講座12:発達と老化の理解;中央法規

資格との関連

介護福祉士資格取得の必修科目である。

実務との関連

看護師および専任看護教員、大学教員(社会福祉学部)として、臨床と教育に携わった経験を活かし、理論に基づいた実践について、具体的に講義する。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050005001 ころとからのしくみⅡ 【ナンバリング：211034】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	柏葉 英美		

學習目標(到達目標)

- ① 人体各部の名称や脳・神経、感覚器、呼吸器、循環器、消化器、泌尿器などの基本的な解剖や生理を理解し、他者に説明出来る。
- ② 骨・関節などからだの動きのメカニズムを理解し、他者に説明出来る。
- ③ 生命の維持、恒常性のおしくを理解し、例を用いて他者に説明出来る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面に汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験80% 課題学習への取り組み10% グループワークへの参加状況10%
授業内の小テストは評価対象としない。

講義時使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」中央法規

資格との関連

介護福祉士国家試験を受けるため必須の修得科目である。

実務との関連

看護師および専任看護教員、大学教員(社会福祉学部)として、臨床と教育に携わった経験を活かし、理論に基づいた実践について具体的に講義をします。

授業概要(教育目的)

この科目は、領域「介護」をバックアップする位置づけとなっている。対象者の生活を支援するという観点から、介護実践に必要な根拠となる人体の構造や機能について理解し、対象者を総合的に捉えるための知識を身につける。また、その知識を基盤として、多職種と連携し支援を行うために、適宜対象者の状況に応じた説明ができるようになる。これらは、今後の学習や実習、及び資格取得後により深く学んでいくための基盤となる。

課題に対するフィードバック

課題のフードバックは、次の授業の最初に行います。

参考文献

隨時、紹介する。

学生へのメッセージ

生活支援の場面において、身体のしくみを知り、その人にあった方法でケアすることはとても大切なことです。介護福祉職としては、最低限知っておくべき知識となります。人体の解剖部分においては、むしろさらに覚える(暗記する)項目となります。こつこつと積み重ねる必要があります。グループワーク、バズセッションを取り入れながら、知識の定着をはかっていきます。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050005500 医療のケアⅢ 【ナンバリング：211039】						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員	杉田 由佳理		

學習目標(到達目標)

1. 口腔内の喀痰吸引を手順通りに実施することができる。
2. 鼻腔内の喀痰吸引を手順通りに実施することができる。
3. 気管カニューレ内部の喀痰吸引を手順通りに実施することができる。
4. 胃ろうによる経管栄養を手順通りに実施することができる。
5. 経鼻経管栄養を手順通りに実施することができる。
6. 医療的ケアにおけるアクシデントに、根拠を踏まえた柔軟な対応ができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面に汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけている。

評価方法

口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内の喀痰吸引、胃ろうによる経管栄養、経肛経管栄養をそれぞれ5回以上行い、演習指導者(担当教員)が記載の3段階で評価する。5回目以降に評価表項目すべて「A」になった場合を合格とする。演習の修了が認められなかった学生は、再度演習の全課程を受講しなければならない。(厚労省通知による評価基準)

ア:評価項目について手順通りに実施できている。

イ: 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。

ウ:評価項目を抜かした。(手順通りに実施できなかった。)

講義時使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」中央法規

資格との関連

介護福祉士国家試験を受けるため必須の修得科目である。喀痰吸引などの医療的ケアの行為を行うための認定には、登録施設における実地研修が必要だが、大学において、この科目を修得すれば医療的ケアの基本研修は修了したと見なされる。

実務との関連

授業計画表

[illegible]

講義名	9050006000 心理学 【ナンバリング：110009】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	杉山 幸子		

學習目標(到達目標)

以下の2点を到達目標とする。

1. 心理学の基礎的な概念について説明することができる。
2. 心理学の基本的な研究方法を理解し活用することができる。

授業概要(教育目的)

心理学というと、心理テストやカウンセリングを連想するかもしれないが、それらは心理学のごく一部に過ぎない。実際には人の心はたのびるを知るために、多様な角度からの研究が行われており、その中には一般的な「心理学」のイメージとはかなり違っているものもあるだろう。この授業では、心理学の基礎的な知識を学び、心理学的なものの方を見方を知ることによって、心理学の専門科目を学ぶための土台となる力を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

介護実践の基盤となる教養と総合的な判断力および豊かな人間性を身につけている。

評価方法

定期試験によって評価する。また、提出物(リアクションペーパー等)の状況を参考にする。

課題に対するフィードバック

リアクションペーパーの結果は集約して次回にフィードバックする。試験の結果(点数・内容)について知りたい学生には個別に開示するので、研究室を訪問すること。定期試験で不合格だった学生は、再試験の前に確認してほしい。

参考文献

講義時使用テキスト

テキストは使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

[illegible]

講義名	9050006402 研究演習Ⅰ 小川ゼミ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員			

學習目標(到達目標)

本科目では、誰もが安心して暮らせるまちづくり(共生社会)を視点に人と人が築く「社会」に関心を持ち、多様な社会問題を理解し、問題解決に向け考え、自ら実践していく力を養うこと、また実践を通して将来自分が福祉専門職として社会貢献できることは何かを見出していくことを目的とする。

授業概要(教育目的)

資料や文献を活用し、地域で生活する高齢者、障害者の地域課題を見出す。更に車椅子で地域にでかけたり、介護サービス事業所など福祉現場の見学を通し、改めて地域課題の提起、解決策の提案、実践につなげるまでのプロセスを体験的に学習する。なお、本科目は研究演習Ⅲと連動して取り組むものである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

介護実践の基盤となる教養と総合的な判断力および豊かな人間性を身につけている。

評価方法

研究演習に取り組む姿勢、レポート課題を総合的に評価する

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

実務との関連

学生へのメッセージ

自身が専門職者として地域とどのように関わっていくことができるか能動的に考える時間としてほしい。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050006407 研究演習Ⅰ 鈴木ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員	鈴木 絵美		

學習目標(到達目標)

「社会貢献活動」に関するテーマを各自設定し、テーマに沿った調査、考察、発表ができる。

- ① 研究を行うために得た情報を整理し、研究計画をたてることができる。
- ② 研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
- ③ 研究を行うための基本的な文献を読み、その内容が理解し説明できる。
- ④ 研究した内容を取りまとめ、発表することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

介護実践の基盤となる教養と総合的な判断力および豊かな人間性を身につけている。

評価方法

レポート、発表により評価

講義時使用テキスト

資料を随時配布

資格との関連

介護福祉士資格取得には必要な科目ではないが、自らの課題を発見し、設定し、資料の収集や分析、考察する能力を高めることは、福祉援助職として必要不可欠な能力であり、他の科目の学びを深めることにも貢献する。

実務との関連

授業計画表

[illegible]

講義名	9050006504 研究演習Ⅱ 小川ゼミ 【ナンバリング：210041】						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員			

學習目標(到達目標)

本科目では、誰もが安心して暮らせるまちづくり(共生社会)を視点に人と人が築く「社会」に関心を持ち、多様な社会問題を理解し、問題解決に向け考え、自ら実践していく力を養うこと、また実践を通して将来自分が福祉専門職として社会貢献できることは何かを見出していくことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域における介護の実践場面を見学させていただくことで、地域や介護を深く理解し、あらゆる場面で汎用できる身体的、心理的、社会的支援を展開できる能力を身に付けることができる。

評価方法

研究演習に取り組む姿勢、レポート課題を総合的に評価する

講義時使用テキスト

資格との関連

実務との関連

授業概要(教育目的)

資料や文献を活用し、地域で生活する高齢者、障害者の地域課題を見出す。更に車椅子で地域にでかけたり、介護サービス事業所など福祉現場の見学を通し、改めて地域課題の提起、解決策の提案、実践につなげるまでのプロセスを体験的に学習する。なお、本科目は研究演習Ⅱと連動して取り組むものである。

課題に対するフィードバック

課題に関しては、発表の場を設け、相互理解を深める時間を設ける。
提出課題(レポートなど)は、個別に評価し対応する。

参考文献

学生へのメッセージ

自身が専門職者として地域とどのように関わっていくことができるか能動的に考え、実践する時間としてほしい。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050006702 基礎演習 鳴海ゼミ 【ナンバリング：110001】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	鳴海 孝彦		

學習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです、

1. 文章の読み方。まとめ方について身につけることができる。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけることができる。
3. レポートの作成方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとなる科目である。授業を通し、各自が大学で学ぶことの目的を明確にし、学生としての自覚(自立した学習意欲)を持ち、日々の学びに必要な学習スキル(聴く・読む・調べる・書く・整理する・まとめる・表現する・伝える・考える)を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

介護実践の基盤となる教養と総合的な判断力および豊かな人間性を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポートを作成し、提出していただきます。レポート、クラスごとの課題に加え、毎回の授業への出席状況と学習態度についても評価の対象となる。

課題に対するフィードバック

レポートや感想文の提出を求め、次の講義においてフィードバックする。

参考文献

講義の進行に合わせて紹介する

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き
必要時応じて別途資料を配布する

資格との関連

実務との関連

学生へのメッセージ

・高校から大学に脱皮して、短期大学生としての学びを深め、有意義な学生生活を送るための基本的なスキルをしっかりと身につけるよう、講義に主体的に参加すること。
・レポート作成のための課題設定を行うので、時事問題に普段から目を向けようとする。
・学習スキルを身につけることは、実務場面において課題を発見し、的確に解決するためのスキルを身につけることにはなかなかにであり、就職活動中の学習のみではなく、実務者として技能の向上にも大きく貢献するものである。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050006703 基礎演習 高橋ゼミ 【ナンバリング：110001】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	高橋 英成		

學習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです、

1. 文章の読み方。まとめ方について身につけることができる。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけることができる。
3. レポートの作成方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとなる科目である。授業を通し、各自が大学で学ぶことの目的を明確にし、学生としての自覚(自立した学習意欲)を持ち、日々の学びに必要な学習スキル(聴く・読む・調べる・書く・整理する・まとめる・表現する・伝える・考える)を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

介護実践の基盤となる教養と総合的な判断力および豊かな人間性を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポートを作成し、提出していただきます。レポート、クラスごとの課題に加え、毎回の授業への出席状況と学習態度についても評価の対象となる。

課題に対するフィードバック

レポートや感想文の提出を求め、次の講義においてフィードバックする。

参考文献

講義の進行に合わせて紹介する

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き
必要時応じて別途資料を配布する

資格との関連

実務との関連

学生へのメッセージ

・高校から大学に脱皮して、短期大生としての学びを深め、有意義な学生生活を送るための基本的なスキルをしっかりと身につけるよう、講義に主体的に参加すること。

・レポート作成のための課題設定を行うので、時々問題に普段から目を向けよう。

・学習スキルを身につけることは、実務場面において課題を発見し、的確に解決するためのスキルを身につけることにはなかなかにであり、大学の学習のみではなく、実務者として技能の向上にも大きく貢献するものである。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050006901 日本語リテラシー 柏葉クラス 【ナンバリング：110004】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	柏葉 英美		

学習目標（到達目標）

日本語で適切に表現する能力と伝えあう力を高め、思考力を伸ばす

- 1 日本語の語彙力を高め、「読む」「書く」「話す」ことがバランスよくできる。
2 日本語の基礎的知識を介護の場で活用することができる。
3 日本語による表現が進んでできる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

介護実践の基盤となる教養と総合的な判断力および豊かな人間性を身につけている。

評価方法

課題の提出・小テスト・授業への取り組み状況、定期試験により総合的に判断する

講義時使用テキスト

資料を配布する

資格との関連

実務との関連

授業概要（教育目的）

「読む」、「書く」、「話す」の3領域について、介護の専門日本語テキストを用い、読み書き練習やロールプレイ、演習問題等を活用して授業を進め、自分の考えを的確な文章や言葉で表現できるようになる。

課題に対するフィードバック

課題のフィードバックは授業の中で行い、学びを共通できるようにする

参考文献

上下ルビで学ぶ介護の漢字ことば にほんごの会企業組合著 スリーエーネットワーク
外国人のための介護記録の書き方練習帳 斉木美紀・田中奈緒著 くろしお出版
介護の専門日本語 西郡仁朗監修 にほんごの凡人社
はじめて学ぶ介護の日本語 基本の知識 三橋麻子・丸山真貴子著 スリーエーネットワーク

学生へのメッセージ

介護福祉士資格取得を目指して、留学してきた皆さんは、日本語の日常会話のほかに介護のこころと介護のことばを学ばなければなりません。介護のことばの中には、普通の生活では使わないような難しい漢字のことばがたくさんあります。介護スタッフどうしが話したり、記録を書いたりするときのことば、また、介護の資格を取るための試験問題に出てくことは、普通に使う日本語と同じではありません。話す、書く、読むを繰り返しながら日本レベルを上げていきましょう。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	語彙力演習① ・イラスト場面(ユニット1)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット1の漢字の読み方および意味を見る
2	語彙力演習② ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット2)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について(演習) ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット2の漢字の読み方および意味を見る
3	語彙力演習③ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット3・4)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット3・4の漢字の読み方および意味を見る
4	語彙力演習④ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット5)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット5の漢字の読み方および意味を見る
5	語彙力演習⑤ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット6)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット6の漢字の読み方および意味を見る
6	語彙力演習⑥ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット7・8)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット7・8の漢字の読み方および意味を見る
7	語彙力演習⑦ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット9)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット9の漢字の読み方および意味を見る
8	語彙力演習⑧ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット10)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット10の漢字の読み方および意味を見る
9	語彙力演習⑨ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット11)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット11の漢字の読み方および意味を見る
10	語彙力演習⑩ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット12)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット12の漢字の読み方および意味を見る
11	語彙力演習⑪ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット13)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット13の漢字の読み方および意味を見る
12	語彙力演習⑫ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット14)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット14の漢字の読み方および意味を見る
13	語彙力演習⑬ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット15)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット15の漢字の読み方および意味を見る
14	語彙力演習⑭ ・小テスト(前回の授業内容) ・イラスト場面(ユニット16)でのやりとり(ロールプレイ) ・「話すときのことば」と「書くときのことば」 ・漢字の書き方、読み方、意味について ・練習問題	課題プリントを読み、わからない語句をチェックする	授業の内容を整理し、ユニット16の漢字の読み方および意味を見る

講義名	9050007000 地域文化論Ⅰ 【ナンバリング：110007】						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員	柏葉 英美		

學習目標(到達目標)

1. 地域の文化的活動に参加することで、地域の歴史と文化についての理解を深める。
2. 地域の特性を踏まえ地域活性化の現状と課題を明確にし、解決策を考え実施することができる。

授業概要(教育目的)

令和5年度厚生労働省白書において「つながり、支え合いのある地域共生社会」と題し、全世代のひと々が地域、暮らし、生きがい、を共に創り、高め合うことが、社会の実現に向けた展望として示されている。市町に於いて、地域住民の分野を横断する課題に対応する包括的な支援体制を整備することを目的とした重層的な支援事業が展開されている。本講義では、高齢化の進展に伴い増え続けている認知症に焦点を当て、地域共生社会を目指し、地域課題の明確化と解決策について検討し実施することを主たる目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

介護実践の基盤となる教養と総合的な判断力および豊かな人間性を身につけている。

評価方法

課題提出、授業アンケート等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

この講義を通して、大学のある八戸を中心とする南部地域の魅力に気づき、八戸が大好きになって欲しい。

実務との関連

授業計画表

[illegible]

講義名	9050007400 社会保障論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員	小川 あゆみ		

學習目標(到達目標)

- ① 社会保障の概念、対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解し説明できる。
- ② 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解し説明できる。
- ③ 社会保障制度の財政について理解し説明できる。
- ④ 公的保険制度と民間保険制度の關係について理解し説明できる。
- ⑤ 社会保障制度の体系と概要について理解し説明できる。
- ⑥ 諸外国における社会保障制度の概要について理解し説明できる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

介護実践の基盤となる教養と総合的な判断力および豊かな人間性を身につけている。
あらゆる場面に汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけている。

評価方法

授業の参加態度、課題の提出状況、期末試験による。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。講義の進行に応じて資料を配付する。

資格との関連

社会福祉主事任用資格取得のための科目である。
介護福祉士資格取得のために必修となる科目ではないが、資格取得
必修の「社会の理解Ⅰ、Ⅱ」に学習した内容を深堀りすることにより、介
護福祉士としての実務に直接関連する社会保障制度などへの理解を
さらに深める。

実務との関連

授業概要(教育目的)

- 1 近年のわが国「社会保険」としての理解するときに、社会保険に
対しては「セーフティネット」としての社会保険制度が、高度経済成長期
以降、どのように展開されてきたか、どのような課題があるかを概観する。
- 2 社会保険制度の財政、制度体系について理解を深める。
- 3 特に、①介護について、従来は主に家族の役割や機能と考えられ
てきた分野が、どのような背景や社会的目的のもと「保険」とし
ての仕組みを採用することになったのか、制度に変化し、新たな制
度が家族や地域社会にどのような影響を及ぼしているのかについ
てを、社会の変化と制度の変化の関連について、説明できるように

課題に対するフィードバック

レポートや感想文の提出を求め、次回の講義でフィードバックする。

参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟最新社会福祉士養成講座「社会保障」(中央法規)
 植野美智子「はじめての社会保障(第19版)福祉を学ぶ人へ」(有斐閣アルマBasic)
 植木善一「ちよっと気になる社会保障 V3」(勁草書房)
 香取照幸「民主主義のための社会保障」(東洋経済新報社)

学生へのメッセージ

授業計画表

[illegible]

講義名	9050007500 地域福祉論 【ナンバリング：100013】						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	介護福祉学科			担当教員	鳴海 孝彦		

學習目標(到達目標)

人口減少、家族・地域社会の憂容が一層進む中で、地域包括ケアを超える「地域社会づくり」の実現に向けた取り組みが進んでいる。持続可能で発展的な取り組みとなるためには、とりから高齢者、世代や分野を超えて様々な機関と連携を図っていくことが重要である。このことから、地域において共に生活する多くの地域社会の基盤について、地域活動（ボランティア活動）や多様な支援者等に関することを学び、その実態及び効果的な実践、期待される効果について理解する。

また、毎年繰り返される災害時の支援について、地域福祉の視点を持って、災害のメカニズムから支援活動までを学び、災害時において介護福祉士の専門職として、福祉活動が可能となる防災士資格取得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

あらゆる場面に汎用できる介護の知識と技術を有し、自立支援の観点から、身体的・心理的・社会的支援を展開できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験・課外活動状況・グループワーク状況を総合的に勘案し評価する。

講義時使用テキスト

適宜資料を配布する。

資格との関連

介護福祉士国家試験受験資格取得希望者は必ず受講すること。

実務との関連

授業概要(教育目的)

私たちの地域社会は、互いに助け合っている、支え合っているという「お互い様」という精神を持つことにより成り立っている。社会の一人として社会の発展のために積極的に関与する態度を養うことを目的とし、社会貢献の基本的意義や地域活動の役割について理解する。また、地域活動実践(国内外)を知ること、自分の身の回りの方々や組織としてのあり様を模索する。更にボランティア活動、自身や、身近な地域の現状と課題を分析し、問題意識を整理し、地域社会に貢献する。

災害・国と言われるわが国の現状を学び、備えから支援までを一括して学習する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義の進行にあわせて紹介する。

学生へのメッセージ

- ・介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目であることから、教科書を讀んでから受講するなど、必ず事前準備を行うこと。
- ・相互授業を目指しているため、担当教員から事前に問いかけられる形式で講義を展開する予定である。また、質問はいつでも受け付ける。
- ・講義の進行に伴ってレポート課題を課すことも、提出されないレポートは評価の対象とする。
- ・欠席回数が一定以上の学生には、期末試験の受験を認めない。

授業計画表

[illegible]

講義名	9050007502 データサイエンス入門						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	介護福祉学科			担当教員	馬場 祥次		

學習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。

1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。

・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

[illegible]

